

動物・植物・生態系の確認状況

動物・植物

- 動植物の現地調査の結果、新しく多くの生物が確認されました。
- スイムシハナカメムシなど、重要な種も新しく確認されました。

分類群	確認種数					重要な種の確認種数				
	全域	宍道湖	大橋川	中海	境水道	全域	宍道湖	大橋川	中海	境水道
哺乳類	26	15	13	26	-	6	3	1	6	-
鳥類	259	224	114	217	31	92	80	30	79	3
爬虫類	13	5	9	12	-	4	2	2	4	-
両生類	15	6	7	12	-	10	2	2	10	-
魚類	192	100	74	156	112	18	16	9	12	5
陸上昆虫類	2,447	1,356	1,576	1,614	4	56	22	26	30	1
陸産貝類										
底生動物	701	348	343	642	339	42	25	19	30	13
陸上植物	718	454	590	388	150	11	2	6	7	0
水生植物	235	76	112	128	59	32	22	14	18	0

現地調査によって確認された重要な種の一例

シンジコハゼ



スイムシハナカメムシ



生態系

上位性

生態系の上位に位置するミサゴやスズキの生息状況（分布や餌など）を確認しました。

ミサゴ



捕獲した魚を持って飛び去る様子

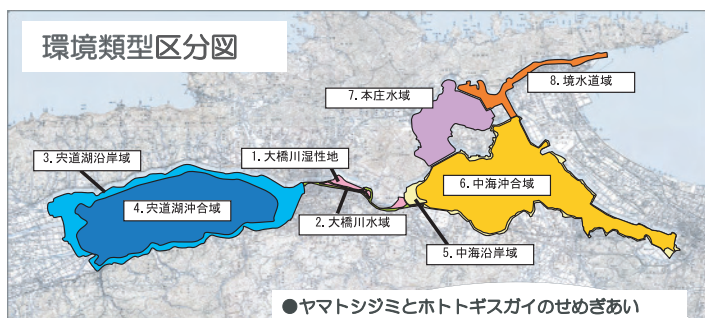
スズキ



胃内容物より食性を調査

典型性

生物の生息・生育環境等から8つの環境類型区分に分け、それぞれの区分毎に代表的な生息種などを検討しました。



● ヤマトシジミとホトトギスガイのせめぎあい



移動性

大橋川を通じて宍道湖、中海、海域等の異なる水域を移動するマハゼ（稚魚を含む）、サッパ、コノシロを選定し、移動状況を確認しました。



マハゼ



サッパ

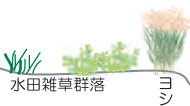


コノシロ

例) 大橋川の典型性のイメージ

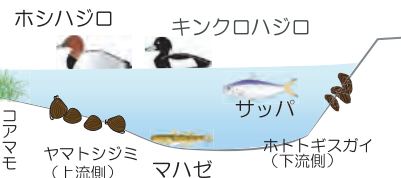
1. 大橋川湿性池

水田、湿性草本群落が大部分を占める。



2. 大橋川水域

塩分は上流部で低く、下流部では高くなっており、経時的な変動が大きい。



3. 宍道湖沿岸域

水深4m以浅の沿岸域。東から西に向けて塩分が低くなる。底質は砂分が卓越する。

5. 中海沿岸域

水深3m以浅の沿岸域。塩分は西部でやや低く、東部では高い。夏季に貧酸素化することがある。

4. 宍道湖沖合域

水深4m以深の湖盆部。大橋川から高塩分水が流入する。夏季に貧酸素化しやすい。

6. 中海沖合域

水深3m以深の水域。境水道を経由した高塩分水が流入する。貧酸素化しやすい。米子湾は富栄養化しやすい。

7. 本庄水域

堤防によって区切られた閉鎖的な水域。塩分成層は微弱で貧酸素化が起りにくい。

8. 境水道域

塩分は最も高く、底質は砂分が卓越している。流動性が高い。